

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
おもちゃの魅力 Toys and Young Children		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
高橋登美子	講義棟3階	火・水・金（授業時間を除く）	授業中に指示します	
授業の概要				
「おもちゃ」という言葉にどんな印象を持つのか、子どもにとってのおもちゃとはいったい何なのだろうか。乳児が楽しむおもちゃもあれば、発達の過程を通し成長してから楽しむおもちゃもある。子どもにとっての「おもちゃ」について考えることから始め、身近な素材を利用・活用した安全なおもちゃを、各自が丁寧に仕上げる。				
授業の目標				
①子どもにとってのおもちゃを考え、手作りのおもちゃを製作することができるようにする。 ②製作に利用できる身近な素材に目を向け、活用することができるようにする。 ③演習活動を通しておもちゃに対する考えを示すことができるようにする。				
授業の方法				
「おもちゃ」についての意見交換をする。受講者それぞれの捉え方や遊びの経験を知ることで、興味・関心を高める。身近な素材の活用を考えながら、創意工夫の中楽しく製作活動に取り組む。				
学習の成果（学習成果）				
①子どもにとってのおもちゃについて、自分自身の考えを持って手作りおもちゃの製作をすることができる。 ②身の回りの、製作に利用できる素材が溢れていることを認識して素材を活かしたおもちゃを製作することができる。 ③自分自身の考察に基づいた「おもちゃの魅力」の要点を述べるることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスの説明、授業において目指すもの、授業において準備するもの）			
第2回目	「子どもにとってのおもちゃ」についてのディスカッション（保育ルームにあるおもちゃのそれぞれの特性を考える）			
第3回目	身の回りの素材（廃品、廃材、空き容器など）の活用法を考える			
第4回目	身近な素材を活用したおもちゃを作成する①（教材研究、素材選び）			
第5回目	身近な素材を活用したおもちゃを作成する②（製作活動）			
第6回目	身近な素材を活用したおもちゃを作成する③（製作活動、活用を考案）			

第7回目	手作りおもちゃの発表会（特徴や工夫の発表、安全性を確かめる、遊びの発展を考える）		
第8回目	紙風船を利用したアレンジ製作に取り組む～紙風船の素材と形を活かした創作活動		
第9回目	保育教材を考える①（モンテッソーリ教育を知る、モンテッソーリ教具を知る）		
第10回目	保育教材を考える②（モンテッソーリ教具に触れる親しむ）		
第11回目	発達を意識したおもちゃを作成する①（教材研究、素材選び）		
第12回目	発達を意識したおもちゃを作成する②（製作活動）		
第13回目	発達を意識したおもちゃを作成する③（製作活動、活用法と遊びの展開を明確にする）		
第14回目	手作りおもちゃの発表会（特徴や工夫の発表、どの様な発達が望めるのかを考える）		
第15回目	それぞれが感じる、想う「おもちゃの魅力」を語りあう（作品づくりを通して得たおもちゃとの向き合い方のディスカッション）		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		50%	製作に必要な材料や用具を進んで準備することができる。活動後の片付けが適切である。友だちと協力して楽しく製作活動に臨んでいる。保育教材に興味を示して進んで取り組んでいる。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
試験			
発表内容（態度含む）		50%	「身近な素材を活用したおもちゃ」（25%）と「発達を意識したおもちゃ」（25%）が、教材研究や素材選びに関してなども含めて説明することができ、おもちゃの活用法と発展性を考えた発表であること。
その他			
教科書と参考図書			
授業内にて製作に関する書籍を知らせる。図書館の活用も勧める。			
履修上の留意点・ルール			
製作に必要な材料や用具は、各自が責任を持って準備すること。			